



今は思い出の半田女性活動連絡協議会 (通称レディース半田)

板倉 恵美(サーティネット'05)

1992年、第1号の広報紙「レディースはんだ」が発行されました。それ以来 32年間半田市の唯一の男女共同参画社会推進活動のグループとして活動してきました。この会は市内の婦人会を基に女性が主催するボランティアグループを募って半田市が作ったものでした。勉強会も度々行いました。男女共同参画とは何か、ジェンダーとは何か、そして条例策定に向けての勉強会と多くの時間を学ぶことに費やしました。



1994年第1回「^{ひと}女と^{ひと}男のつどい」を雁宿ホールで開催しました。それ以来23回の開催がありました。講演を主体としてそれにプラス演奏会や映画など毎回多くの会員さんや一般市民の皆さんに参加して頂きました。会員だけでなく一般の方々も此の3月に開催する「講演と映画」を楽しみにしてくれていたようです。

2005年半田市男女共同参画推進条例が策定されました。知多半島5市5町に先がけての制定でした。会員の皆さんの意見が盛り込まれたものでした。それを記念し4月の第4日曜日を「男女共同参画の日」と定め、毎年記念行事が行われています。



私が初めてレディースの名を知ったのはレディース創立の年、私が属していたボランティア団体にもお誘いがあったからです。それから何年も経った頃知人が会長になり、その年度の「女と男のつどい」のチラシを作ることを頼まれました。その時はまだ会員ではありませんでした。その後いつとはなしにレディースに入会しました。しかしながら当時男女共同参画には全く興味はありませんでした。そのとき加入していた団体の「チラシや署名を頼むのにいいよー」と言われて入会したのですが、「嘘つき!」とまでは言いませんが全くその方面ではたいした事もなく当て外れでした。とは言え、最後の会長になるまで居たのは多分居心地が良かったのからかもしれません。普通のおばさんたちと集まっての話よりチョット方向性が違って世界的事・日本の事・市政の事・法律の事などが話題になり私は楽しかったのです。会長が変わるとその1年間はイベントも広報紙も全て会長色、時に「広報偏ってない」と言われることもありましたが、それはそれでいいんじゃないと思っていました。それもまた私には面白かったのです。そんなこんなで20年余も関わってしまいました。しかし、昨今の社会情勢もあり新入会員さんがいないという現実、また市内の婦人会が次々と解散してしまったことで大きく育った木からはらはらと葉が落ちてゆくように会員数を減らし、残っている会員さんも次々と80歳

ウィルあいち交流ネット

2025年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞記念セミナー

今あらためて考える「男性にとっての男女共同参画」

名古屋大学教授
田村哲樹氏



2026年2月1日(日)
ウィルあいち特別会議室
参加者 41名

2025年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞を記念し、「今あらためて考える『男性にとっての男女共同参画』」を開催しました。講師は2002年に名古屋大学教職員として初めて育児休業を取得された田村哲樹氏です。事実婚やワンオペ育児などの経験を踏まえ、「こだわりを手放す」「話し合える関係性」の大切さを語りました。講演では制度と慣行のはざまに生じる男性の生きづらさにも触れ、自分らしい生き方を選択できる社会の在り方について、多角的に考える機会につながりました。



活発な質疑応答を通し気づきを共有

わかりやすく温かみのある語り口に、会場は終始和やかな雰囲気。質疑応答では参加者から次々と質問や意見が寄せられました。講師と参加者との対話を通じて、気づきを共有。男性が抱える課題への理解が深まりました。

本セミナーは誰もが個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、意識を高める有意義な場となりました。

報告：箕浦 真智子
(Reiwa'19)



最後は皆で記念撮影

今あらためて考える「男性にとっての男女共同参画」のセミナー感想

婦木 望希 (ME24)

2025年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰受賞記念セミナーを無事開催することができホッとしています。箕浦会長をはじめ、交流ネットメンバーの皆様、大変お疲れ様でございました。

私が田村先生を推薦させていただいた理由は、2024年度愛知県男女共同参画人材育成セミナーでの講義が大変楽しく、興味深く聴くことができたからです。また、2025年度のテーマ「知ることからはじめよう 社会からの圧～わたしを切り拓くために～」に関連し、男性の意見も聞くことが出来ればと思い、推薦させていただきました。

田村先生のセミナーは自己紹介から楽しく聞くことができました。また、最近の男性にとっての男女共同参画は変わりつつあることを示されました。男性は仕事、女性は家庭といった分別は古い考えであることを改めて認識させていただきました。

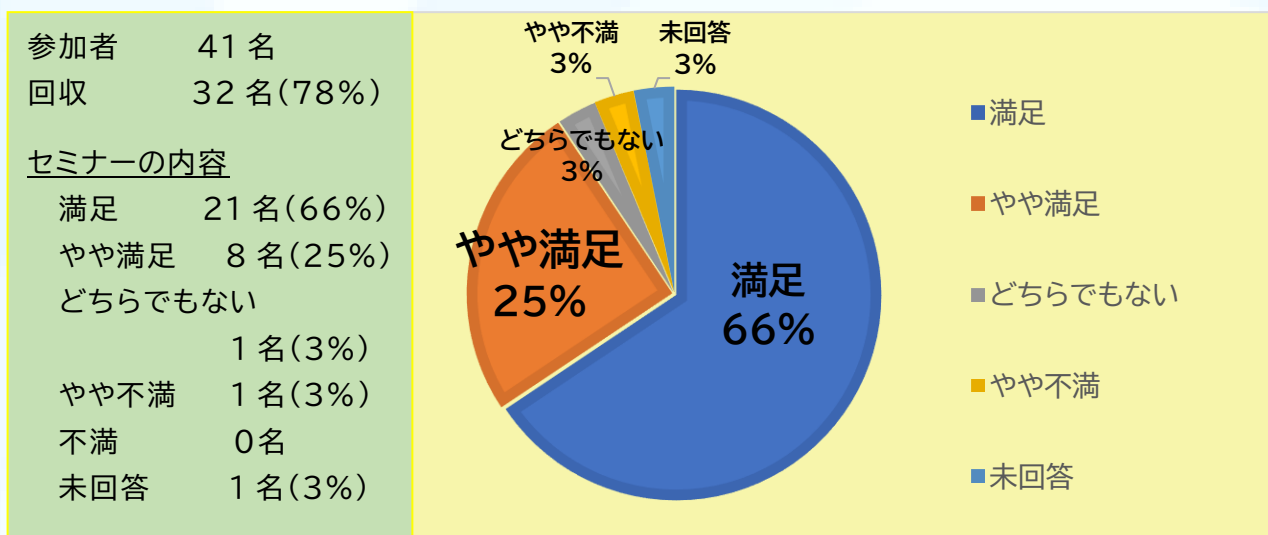
私の周りでも最近、特に2020年頃から結婚した男性の話を知っていると、「自分の方が先に帰宅するから、夜ご飯作ってるよ」や「家にいるときは必ず子供の面倒を見るし、土日は近くの公園連れていく」など、男性が率先して家事や育児をするという話を聞くことが増えたように感じます。

ただ、そういった男性は、もともと料理が好きな方や、実家で兄弟の面倒をよく見ていたという話も聞き、生活環境も関係してくるのではないかと考えました。

今回一番印象に残った話は、無意識のこだわりをなくすことと、「話し合うこと」です。私事ではありますが、2021年に結婚してから今まで、きちんと話し合うことができていなかったのではないかと少し恥ずかしくなりました。だんだん「自分でやった方が早い」から「お願いしないほうが期待しないで済む」に変わっていった気がします。これは「妥協」ではなく「諦め」に近いものだったのかもしれません。

話し合いをすることでお互いの意見を擦り合わせることができれば、家庭でのストレスも少なく生活していけるのではないかと思います。田村先生の話を知り、自分の中で反省する点があり、今後は少しずつでも「お願い」をしていければと思います。

セミナー アンケート結果・人数と比率



セミナー アンケート結果・感想

- *男女共同参画に関する意識を変化させることについて、男性の田村先生から話していただけることで、女性目線の一方的な見方ではないと安心しました
- *男性の考え方がよくわかりました。今の若い男性にとっては、家事・育児は当然のこのようで、そこには旧世代とのジェネレーションギャップがあり、そこが問題だと感じます
- *「男ってこういうもんだよね」という考えと、最近の考えとのほざままで毎日考えさせられます。でも「話し合う」のはとても大事。実際に話し合えると心が楽になります(50代男性)
- *身近に出来ることとして、男女にかぎらず相手を思いやる、生活を共にするには自身の無意識のこだわりを手放すこと → 話し合いができる → 自分とお互いを大切にできる → 良い関係が作れることにつながると感じた
- *「男は泣くな！」等、ひとり親、父子家庭の父は「支援を求めることは男として敗北だ」など自責の念があるように感じます。心が制度を拒んでしまう人へのメッセージ発信方法は？
- *「30年後の社会」この先どのような方向へ男女共同参画が進んでいくのかを知りたい！

..........*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*

ウィルあいち交流ネット関連・参加事業報告

森田 登喜子(ウィル 2000)

(1) 2025年度愛知県男女共同参画人材育成事業 フォローアップセミナー

ジェンダード・イノベーション

～公正な科学技術の実現に向けて

○日時：2025年12月18日(木)13:30～15:30 オンラインによるズーム開催

○講師：弓削尚子氏(早稲田大学法学学術院教授)



〔講演要旨：弓削尚子氏記〕

ジェンダード・イノベーションとは、「研究開発や科学の発展において性差に着目することで、公正な科学技術の実現をめざす」という意味合いをもつ。たとえばアマゾン社の「アレクサ」やアップル社の「シリ」の声は女声に聞こえ、「アシスタント」の女性化というステレオタイプの助長に批判があがった。他方、医科学において、アメリカなどでは新薬開発の被験者や診断基準の対象が男性中心に進められてきた経緯があり、女性患者への弊害が指摘されている。参加者の皆さんが、科学技術の発展を享受する消費者/利用者としてジェンダー意識を研ぎ澄まし、新たな気づきを得る機会としたい。

〔報告〕

例として男女がかかりやすい病気の違いなどを話されました。フェミニズムは社会的、政治的、文化的なジェンダーバイアスを取り上げてきましたが、21世紀に入って「科学とジェンダー」に目が向けられ始めました。本事業は愛知県男女共同参画人材育成セミナー等の修了者を対象に(公財)あいち男女共同参画財団の主催で行なわれました。

(2) びじょんネットワーク愛知

女性の活躍と地方創生

～若者や女性に選ばれる愛知とは～



○日時：2026年2月15日(日)14:00～15:30 @ 鯉城ホール

○基調講演・講師：小池百合子氏(東京都知事)

○パネルディスカッション・パネリストとファシリテーター：

小池友妃子氏(碧南市長)、石川智子氏(知立市長)、佐藤有美氏(長久手市長)、
梶山美也氏(魚太郎(株)社長)、近藤にこる氏(EdFusion CEO)、藤原淳子氏

[報告]

小池知事は「大義と共感＝理想ときめ細かな現実対応」で、都庁の女性進出、育休ではなく育業、ライフ・ワーク・バランス、チルドレン・ファースト等の施策を語りました。

3人の市長はそれぞれの理想を掲げ、粘り強く市政に取り組んでいます。海の男たちの中でいきなり2代目社長となった梶山さんは、キャリアを活かして業績を上げ、事業を展開しました。中学3年生の近藤さんは矢継ぎ早にIT用語を駆使して話し、目眩く画像を映しました。ジェネレーションギャップに圧倒され、時代の変化を感じました。

なお、「びじょんネットワーク愛知」は、愛知県が「女性首長によるびじょんネットワーク(事務局：東京都)」に賛同して開催する会議です。

(3) 2025年度愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了式

今年度の愛知県男女共同参画人材育成セミナーの修了式は、3月4日10時30分よりウィルあいちセミナールーム1,2において行なわれました。

(公財)あいち男女共同参画財団武田晃理事長の挨拶、アドバイザー後藤澄江先生の講演後、修了生14名3班の研究発表がありました。各班の研究テーマを記します。

1班：年を重ねても自分らしく生きるために～高齢女性の生きがいについて～

2班：一步を踏み出す理由

—地方女性議員のキャリア選択とリーダーシップ形成の契機—

3班：男性の家事・育児参画を妨げる社会構造とジェンダー意識

～女性のキャリア継続との関連性に着目して～

いずれのテーマも現在の男女共同参画の課題であり、各班ともきめ細かく問題を追及しました。今後の交流ネット活動にも大変参考になると思われます。

ウィルあいち交流ネットは、2000年ウィルあいちセミナー等の修了生の自主活動グループが結成

メンズリブ名古屋/ '女性学'98の会/ グループ・キーツ/ ウィル2000/

I.W.L/ ウィルDo2002/ サーティネット'05/ ベリーズ18/ Step07/ Fem.'09/

Amelie'10/ ひかるよ'15/ そだね!2017/ Hey Say Final/ Reiwa'19/

みつ2020/ リモート2021/ Women's Cup'22/ Lapin'23/ ME24/ (加入順)

2026年4月発行

編集発行：ウィルあいち交流ネット 協力：公益財団法人 あいち男女共同参画財団